

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科／子ども教育学科		
科目名称	社会と経済						授業形態		講義	
科目コード	121300	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員			アクティブ ラーニング	
担当教員名	土田 博								ICT活 用	
授業概要	経済学を学ぶ目的は、現実の経済の理解や分析だけでなく、広く見識を養うための基礎を身につけることにあります。ここで見識とは、論理的でバランスの取れた考えと、問題に対する広い視野を指します。経済学はこうした見識を養うためのひとつの素養であり、皆さんが社会人として生きていく上で不可欠の教養です。タイムリーな経済情報等も随時授業の中に取り入れ、現在の経済状況と先人が築いた経済理論の基礎を身につけていきます。その知識によって現代社会が有する種々の課題を理解出来るようになることこそ、現代の社会人としての教養なのです。教養ある常識を学ぶ授業です。教養ある常識は、将来どのような職業に就こうとも求められるものであり、その基礎を学生時代にしっかり身につけ、自分が目標とする進路決定に活かしていただきたい。 授業はテキストまたは資料を中心に新聞等のタイムリーな経済記事等をも利用しながら、講義形式で行われます。社会の動きを知ること、自らの進路決定に役立つだけでなく、様々な人々が活動する社会において、常識ある社会人として行動するための基礎力となります。公務員系の職業を目指す学生には試験対策としてももちろん必要な学問ですが、世の中の動向をとらえつつ、自らの進路選択を行っていくとするビジネス的感覚を身につけようとする学生向けの授業でもあります。									
関連する科目	社会学									
授業の進め方 と方法	テキストをしっかりと読み込み、まずはオーソドックスな経済理論を理解してもらうように講義形式の授業を基本とします。その上に随時、新聞、インターネット情報等のタイムリーな経済記事を紹介し、経済理論との整合性を検証していきます。									
授業計画 【第1回】	第 1回 はじめに（講義の概要と目標） ・経済学の全体像となぜ経済学を学ぶのか解説する。 ・ミクロ経済学とマクロ経済学の概要									
授業計画 【第2回】	第 2回 ミクロ経済学の基本 ・価格と需要の関係 ・需要曲線 ・供給曲線 ・需要・供給の弾力性									
授業計画 【第3回】	第 3回 消費者はどう行動するのか ・家計の消費 ・所得効果 ・代替効果									
授業計画 【第4回】	第 4回 企業はどう行動するのか ・企業の目的 ・生産関数 ・費用曲線 ・利潤の最大化									
授業計画 【第5回】	第 5回 市場機能と価格メカニズム ・完全競争 ・競り人 ・市場取引の利益									
授業計画 【第6回】	第 6回 寡占市場 ・ゲーム理論 ・囚人のジレンマ ・カルテル									
授業計画 【第7回】	第 7回 市場の効率性と市場の失敗 ・市場の効率性 ・市場の失敗									
授業計画 【第8回】	第 8回 ミクロ経済学のまとめ ・アルフレッド・マーシャルを中心とする新古典派経済学についてまとめる。 需要・供給曲線の意味を十分に理解し、市場の均衡条件について分析する。									
授業計画 【第9回】	第 9回 マクロ経済学の基本 ・マクロ経済活動のとらえ方 ・GDPとは何か ・GDPに含まれないものは？ ・三面等価の原則 ・物価指数									
授業計画 【第10回】	第10回 GDPはどう決まるのか ・需要とケインズ経済学 ・国民所得の決定メカニズム ・財市場と貨幣市場の均衡									

授業計画 【第11回】	第11回 マクロ経済主体の行動 ・家計の消費行動 ・企業の投資行動 ・政府の存在 ・政府の役割
授業計画 【第12回】	第12回 財政政策 ・乗数効果 ・自動安定化機能 ・財政政策のIS-LM分析 ・財政赤字
授業計画 【第13回】	第13回 金融政策 ・金融 ・ハイパワード・マネーと信用創造 ・中央銀行の役割
授業計画 【第14回】	第14回 インフレとデフレ ・インフレ ・インフレ期待 ・良いインフレと悪いインフレ ・バブル経済とその崩壊
授業計画 【第15回】	第15回 マクロ経済学のまとめ ・政府の積極的な財政・金融政策の必要性を主張したJ. M. ケインズの理論について復習する。 現代においても世界の経済政策の主流を占める有効需要の理論について検討する。
授業の到達目標	1. 現代の社会における経済の仕組みや課題を理解し、社会人としての教養を身につけ、ビジネスの社会においてもまた一市民としても豊かな生活を過ごせるようになる。 2. ニュースや新聞を理解できる。【生涯学習力の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	テキストをしっかりと読み込むこと。新聞に目を通し、経済の動きに関心を有すること。(約1時間)
授業時間外学習【復習】	授業の復習を1時間程度必要とする。配布された、レジメ等はきちっとスクラップしておくこと。 定期試験に負担がかからないように、ミクロ経済学が終了したら中間テストを実施する。
課題に対する フィードバック	課題提出を行う場合は振り返りを行い論評します。
評価方法・基準	中間試験40点、学期末試験40点、授業への積極的参加度(ミニレポート提出、意見発表など)20点。
テキスト	資料のコピーを配布する予定。
参考書	授業において参考書を使用する予定はありません。必要な学生には紹介します。
備考	特にありません。

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科		管理栄養学科／食品開発科学科		
科目名称	社会と経済						授業形態		講義	
科目コード	121300	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員			アクティブ ラーニング	
担当教員名	土田 博								ICT活 用	
授業概要	経済学を学ぶ目的は、現実の経済の理解や分析だけでなく、広く見識を養うための基礎を身につけることにあります。ここで見識とは、論理的でバランスの取れた考えと、問題に対する広い視野を指します。経済学はこうした見識を養うためのひとつの素養であり、皆さんが社会人として生きていく上で不可欠の教養です。タイムリーな経済情報等も随時授業の中に取り入れ、現在の経済状況と先人が築いた経済理論の基礎を身につけていきます。その知識によって現代社会が有する種々の課題を理解出来るようになることこそ、現代の社会人としての教養なのです。教養ある常識を学ぶ授業です。教養ある常識は、将来どのような職業に就こうとも求められるものであり、その基礎を学生時代にしっかり身につけ、自分が目標とする進路決定に活かしていただきたい。 授業はテキストまたは資料を中心に新聞等のタイムリーな経済記事等をも利用しながら、講義形式で行われます。社会の動きを知ること、自らの進路決定に役立つだけでなく、様々な人々が活動する社会において、常識ある社会人として行動するための基礎力となります。公務員系の職業を目指す学生には試験対策としてももちろん必要な学問ですが、世の中の動向をとらえつつ、自らの進路選択を行っていくとするビジネス的感覚を身につけようとする学生向けの授業でもあります。									
関連する科目	社会学									
授業の進め方 と方法	テキストをしっかりと読み込み、まずはオーソドックスな経済理論を理解してもらうように講義形式の授業を基本とします。その上に随時、新聞、インターネット情報等のタイムリーな経済記事を紹介し、経済理論との整合性を検証していきます。									
授業計画 【第1回】	第 1回 はじめに（講義の概要と目標） ・経済学の全体像となぜ経済学を学ぶのか解説する。 ・ミクロ経済学とマクロ経済学の概要									
授業計画 【第2回】	第 2回 ミクロ経済学の基本 ・価格と需要の関係 ・需要曲線 ・供給曲線 ・需要・供給の弾力性									
授業計画 【第3回】	第 3回 消費者はどう行動するのか ・家計の消費 ・所得効果 ・代替効果									
授業計画 【第4回】	第 4回 企業はどう行動するのか ・企業の目的 ・生産関数 ・費用曲線 ・利潤の最大化									
授業計画 【第5回】	第 5回 市場機能と価格メカニズム ・完全競争 ・競り人 ・市場取引の利益									
授業計画 【第6回】	第 6回 寡占市場 ・ゲーム理論 ・囚人のジレンマ ・カルテル									
授業計画 【第7回】	第 7回 市場の効率性と市場の失敗 ・市場の効率性 ・市場の失敗									
授業計画 【第8回】	第 8回 ミクロ経済学のまとめ ・アルフレッド・マーシャルを中心とする新古典派経済学についてまとめる。 需要・供給曲線の意味を十分に理解し、市場の均衡条件について分析する。									
授業計画 【第9回】	第 9回 マクロ経済学の基本 ・マクロ経済活動のとらえ方 ・GDPとは何か ・GDPに含まれないものは？ ・三面等価の原則 ・物価指数									
授業計画 【第10回】	第10回 GDPはどう決まるのか ・需要とケインズ経済学 ・国民所得の決定メカニズム ・財市場と貨幣市場の均衡									

授業計画 【第11回】	第11回 マクロ経済主体の行動 ・家計の消費行動 ・企業の投資行動 ・政府の存在 ・政府の役割
授業計画 【第12回】	第12回 財政政策 ・乗数効果 ・自動安定化機能 ・財政政策のIS-LM分析 ・財政赤字
授業計画 【第13回】	第13回 金融政策 ・金融 ・ハイパワード・マネーと信用創造 ・中央銀行の役割
授業計画 【第14回】	第14回 インフレとデフレ ・インフレ ・インフレ期待 ・良いインフレと悪いインフレ ・バブル経済とその崩壊
授業計画 【第15回】	第15回 マクロ経済学のまとめ ・政府の積極的な財政・金融政策の必要性を主張したJ. M. ケインズの理論について復習する。 現代においても世界の経済政策の主流を占める有効需要の理論について検討する。
授業の到達目標	1. 現代の社会における経済の仕組みや課題を理解し、社会人としての教養を身につけ、ビジネスの社会においてもまた一市民としても豊かな生活を過ごせるようになる。 2. ニュースや新聞を理解できる。【生涯学習力の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	テキスト・資料をしっかりと読み込むこと。新聞に目を通し、経済の動きに関心を有すること。(約1時間)
授業時間外学習【復習】	授業の復習を1時間程度必要とする。配布された、レジメ等はきちっとスクラップしておくこと。 定期試験に負担がかからないように、ミクロ経済学が終了したら中間テストを実施する。
課題に対する フィードバック	課題提出を行う場合は振り返りを行い論評します。
評価方法・基準	中間試験40点、学期末試験40点、授業への積極的参加度(ミニレポート提出、意見発表など)20点。
テキスト	資料のコピーを配布する予定。
参考書	授業において参考書を使用する予定はありません。必要な学生には紹介します。
備考	特にありません。